

都路プレス

広がる復興のスイーツ

洋菓子で町おこし

住民の更なる帰還目指す

「みやこじスイーツゆい」は、田村市都路町にある洋菓子店だ。東日本大震災の影響で人が少なくなった都路町の町おこしのきっかけを作ろうと平成28年3月にオープンした。地元産の「都路のたまご」という新鮮な卵をふんだんに使用した菓子が人気である。

東京電力福島第一原発事 平成26年4月に解除された影響で都路町は一部が。た。しかし、現在の人口は避難指示区域に指定され、以前の7割程である。若い



みやこじスイーツゆいで働く遠藤さん(左)と渡辺さん

世代の人達に戻って来てもらうために、子供や女性の好きな洋菓子の店を立ち上げた。

都路町をはじめ、田村市出身や在住の女性6人が働いている。仕事として洋菓子を作るのは初めての人はかりだったが、東京プリンホテルでお菓子作りをしてる内藤武志さんにかから技術指導してもらい、今に至っている。



プリン製造の様子

遠藤出梨子さん(30)によると「お客さんの年齢層は高齢者が多く、十代、二十代の若い人が少ない」のが悩みだ。それでも、「わざわざ会津や県外などからお菓子を買いに足を運んでくれるお客さんもいるので、嬉しい」と語っている。

名前の由来

「みやこじスイーツゆい」のゆいとは、元々「結」という漢字で、むすぶ、つなぐ、という意味がある。

(金澤)

人気はプリン

地元の材料を最大限に生かす

「みやこじスイーツゆい」では、商品に地元の特産品である「都路のたまご」を使った、おいしいお菓子を

作っている。人気商品は、オープンで蒸し焼きした三種類のプリン。その中で、一番人気なのは「ゆいプリン」だ。このプリンは、卵本来の色が出ている。やわらかくて、さっぱりとした風味が特徴だ。

もう一種類は「ゆいプリン・リッチ」。卵の黄身だけを使い、生クリームがふんだんに入っている、とても贅沢なプリンだ。ほかに、プリンを凍らせ



新鮮な都路のたまご



人気のゆいプリン(左)とゆいプリン・リッチ

くま河の天然水など、同じ田村市内の名物を材料にしている。

七月からは、「ジェラート」の販売を開始。さらに、店内で食べることが出来る「イートイン」を始めた。

渡辺柚香さん(21)は、「おしゃれな雰囲気でお菓子を楽しめるので、ぜひ来てほしい」と話している。

(山岸、佐久間)

店にタイヤが？

「みやこじスイーツゆい」の店は建物ではなく、トレーラーハウスという特殊な車になっており床下にはタイヤがある。簡単に建てられ、しかもとてもよく目立つ。壁は卵をイメージした黄色に塗られている。



お店として使っているトレーラーハウス

僕たちがつくりました



右から
金澤 右京 (三河台小5年)
佐久間 瑠璃介 (鬼生田小6年)
山岸 達矢 (行健中3年)